

温室効果ガス削減実施状況報告書

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

今治造船株式会社 広島工場

(2) 事業所の所在地

広島県三原市幸崎能地2丁目1-1

(3) 業種

3131 船舶製造修理業

2 計画の期間

本計画の期間は、平成30年度を基準年度とし、令和5年度から令和9年度までの5年間とする。

3 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標の達成状況

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量（t-CO₂）、削減率（%）

温室効果 ガスの種類	基準年度 排出量(a)	目標年度 上段：見込量 (b) 下段：削減率 (c)	計画期間の実績 (上段：実排出量(d)、下段：削減量の対基準年度比 (e))				
	平成30年度 (2018年)	令和9年度 (2027年)	令和5年度 (2023年)	令和 年度 ()	令和 年度 ()	令和 年度 ()	令和 年度 ()
エネルギー 起源CO ₂	43,455	21,000 51.7%	19,992 54.0%				
非エネルギー 起源CO ₂		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
メタン		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
一酸化二窒素		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他 温室効果ガス		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
温室効果ガス 実排出量総計	43,455	21,000 51.7%	19,992 54.0%				
温室効果ガス みなし排出量							
実績に対する 自己評価	コンプレッサー(280kw撤去、休日停止260kw4台)運転見直し、LED照明器具への更新を行い CO2排出量の削減、目標値 年間1%削減						

※ 削減率(c) = ((a)-(b))/(a) × 100 削減量の対基準年度比(e) = ((a)-(d))/(a) × 100

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標： 溶接用ワイヤー量(t)

温室効果 ガスの種類	基準年度 原単位 (a)	目標年度 上段：原単位 (b) 下段：削減率 (c)	計画期間の実績 (上段：原単位実績(d)、下段：削減量の対基準年度比 (e))				
	平成30年度 (2018年)	令和9年度 (2027年)	令和5年度 (2023年)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)	令和8年度 (2026)	令和9年度 (2027)
エネルギー 起源CO ₂	22.76	12.35 45.7	22.408 1.5%				
非エネルギー 起源CO ₂		0	0	0	0	0	0
メタン		0	0	0	0	0	0
一酸化二窒素		0	0	0	0	0	0
その他 温室効果ガス		0	0	0	0	0	0
温室効果ガス 排出量総計	22.76	12.35 45.7%	22.408 1.5%				
エネルギー消費 原単位 (原油換算kl/ワイヤーt)	8.38	5.60 33.2%	5.18 38.2%				
実績に対する 自己評価	コンプレッサー(280kw撤去、休日停止260kw4台)運転見直し、LED照明器具への更新を行い CO2排出量の削減、目標値 年間1%削減						

※ 削減率(c) = ((a)-(b))/(a) × 100 削減量の対基準年度比(e) = ((a)-(d))/(a) × 100

4 温室効果ガスの排出の抑制に係る具体的な取組の実施状況

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組

	項 目	削減量等	具体的な取組
1	高圧変圧器を順次 トップランナー変圧器に変更	75t-CO2/年	変圧器更新時及び新設時トップランナー変圧器へ 変更 令和5年度15台更新 順次更新計画中
2	LED照明器具の採用	100t-CO2/年	工場天井灯をLEDランプに変更 3,000灯中、2,200灯交換済み 順次更新中
3	インバータモータの採用	10t-CO2/年	クレーンモータの更新時にインバータモータを採用 5基 モーター20台更新
4	コンプレッサ運転停止	50t-CO2/年	連休、日曜日のコンプレッサ停止

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組（環境価値の活用等）

	種 類	合計量
1	—	
2	—	
3	—	

○ その他の取組

	項 目	削減量等	具体的な取組
1	ISO14001取組	—	定期的監視、見直し
2	除湿機運転時間の削減	—	塗装工場、除湿機の運転時間を削減
3	廃棄物の分別回収	—	可燃物菅、不燃物菅、スクラップ缶 分別回収し、有効利用。

※ 環境に配慮した実践的な取組などをされていれば記載してください。